

とうにうん

第25号 09年3月5日

JR東海労東二運分会

責任者 庭山 義輝

編集 教 宣 部

宮内指導助役 東二輸でも暴言

「ちょっと、こっち来い」「いいから座れ」
「開き直ってるのか」「お前だけだ」
「言うこと聞け」「昨日点呼で何あった」
「偉いんだ（管理者は）」
「超勤なんか、何ぼでも出してやる」

「こだま」に乗務の車掌が熱海駅で7号車から、車椅子をご利用のお客様の下車を手伝っていたところに、宮内助役が突然現れて「何をしているのか」と質問をしてきました。車掌は停車時間が少なく、お客様へのサービスと安全を優先するために質問には応じませんでした。

その後、宮内助役は車内業務をする車掌の後ろからついて回るという行為を続けました。たまりかねた車掌が「何なんですか」と聞くと、「おまえに話す必要はない」と言ってその場を去りました。

これで終わったと思っていた車掌を、退出点呼後指導科へ呼び出し「ブランドクオリティー」を持ち出したり、「何で返事をしない」と強く迫ってきました。車掌は、「下車手伝いの状況とお客様の前で業務上のやりとりをすることが大変失礼にあたる」などの説明をしました。

それでも納得できない様子で若干のやりとりが続きましたが、その過程であろう事か、感情的とも思えるように車掌に対して「バカ野郎」と言ってしまったのです。宮内助役は、車掌の抗議に対し発言を「撤回」したそうです。

指導助役が営業に関する添乗をする必要があったのか、という疑問は残りますが、それにしても「管理者・助役・上司・先輩」であり人の手本になるべき人が「バカ野郎」とは、どのように説明をしても許されるものではありません。

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

小見出しの「ちょっと、こっち来い…」は3月2日に東海労組合員NさんとKさんが指導科に呼びつけられた時の、宮内助役の暴言です。本文□内の「こだまに乗務の車掌が…」は06年1月に東海労組合員Sさんに対する暴言を明らかにした東海労の掲示の一部

です。

宮内助役は、06年当時は東一輪の指導助役でしたが、その後東二輪に転勤してきました。蛇足かも知れませんが、現在みなさんは多分、宮内助役の相手かまわずの乱暴な話し方に閉口しているのではないのでしょうか。会話自体が成立していないと言ったほうが正確かも知れません。

二人とも退出点呼が終わり、ホッとしていたところを呼びつけられました。残念ながら、いつものとおり用件内容も全く告げないまま一方的に「N、K」と呼び捨てで指導科に招き入れたのです。当然二人とも勤務時間ではありません。

Nさんと呼ばつけた理由は、3月1日の出勤点呼の時（当然早め出勤で勤務時間前）にネクタイが違っていた（なぜか、ネクタイの違いを指導助役が）ということです。Kさんと呼ばつけた理由は、例のごとく一口試問に対するものでした。全く取るに足りないことを理由に言いたい放題の宮内助役は、管理者としてと言うよりも「社会人」として疑問を持たざるを得ません。

ついでですが奥村指導科長にお願いします。乗務員を「指導」する前に直属の部下、宮内助役に「社会人なんだから勉強しなさい」と説諭、指導してください。もう一つ、ついでに紹介すれば過日、組合員Bさんが訓告処分を通告されたました。この時のBさんも早め出勤をして準備をしていたため帽子を着用していました。しかし勤務時間でもなく、さらに処分通告を受けるために、岡田総務科長はBさんに「目上の人に対するときは帽子を取りなさい」と命令したそうです。

組合員のみなさん！ ユニオン・国労組合員のみなさん！

大きな声で言いましょう。

一人ひとりが、自らが行動しないと職場は変わりません。

管理者の暴言はパワハラだ！

人権を無視した「上下関係」の強要はパワハラだ！

宮内助役は、「社会人」ならもっと勉強しろ！

異常な「命令と服従」の労務管理は認めない！